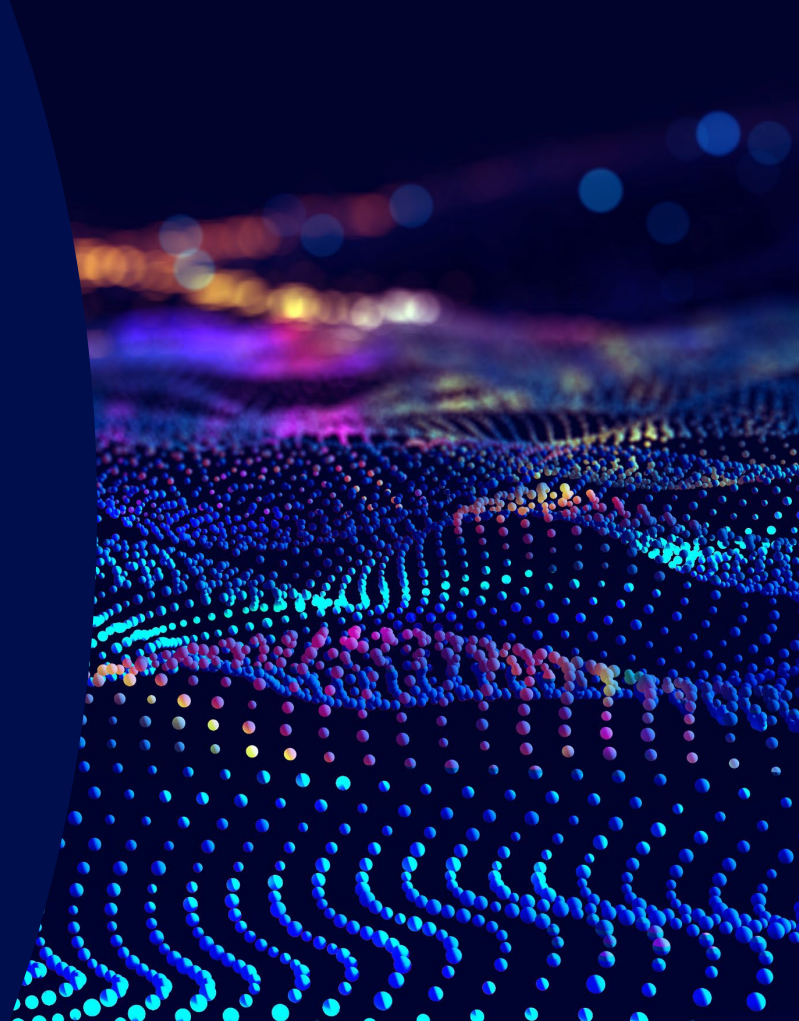


翻訳からコミュニケーションへ 生成AIが変える現場のローカライズ

2025. 12.02

パナソニック コネクト株式会社
特命担当 兼 コーポレートPR マネージャー
戸田 広美

Panasonic
CONNECT



パナソニック コネクト会社紹介



会社概要



名称	パナソニック コネクト株式会社
英文名称	Panasonic Connect Co., Ltd.
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号 住友不動産汐留浜離宮ビル
Tel	03-5565-8700（代表）
Web	https://connect.panasonic.com
設立	2022年4月1日
プレジデント	樋口泰行
事業内容	「サプライチェーン」「公共サービス」「生活インフラ」「エンターテインメント」分野向け機器・ソフトウェアの開発／製造／販売、並びに、システムインテグレーション／施工／保守・メンテナンス、およびサービスを含むソリューションの提供
従業員数	約29,700名 国内 約12,200名 / 海外 約17,500名（2025年7月1日現在）
売上高	1兆 3,332 億円（2024年度）
拠点数	国内事業所 10（含む工場5箇所） 国内関連会社 10 海外事業所 23（2025年7月1日現在）

グループ体制について

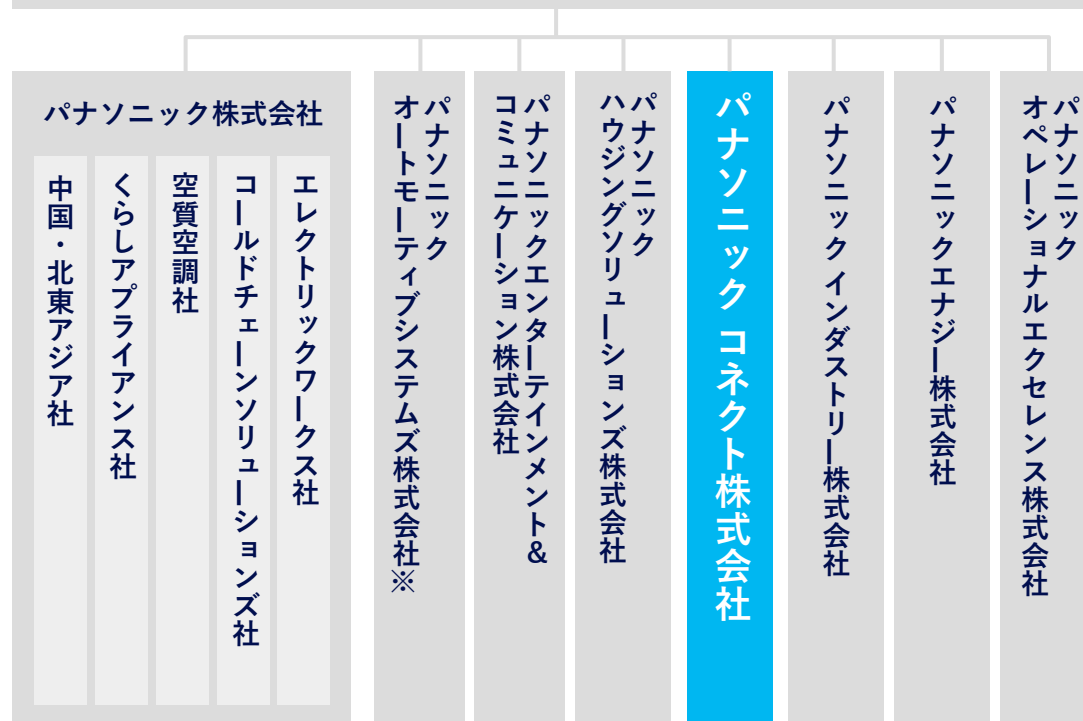
-2022.3

パナソニック株式会社

- ・コーポレート戦略・技術部門
- ・くらし事業本部
- ・オートモーティブ社
- ・エンターテインメント&コミュニケーション事業部
- ・ハウジングシステム事業部
- ・コネクティッドソリューションズ社
- ・インダストリー社
- ・エナジー社
- ・オペレーショナルエクセレンス社

2022.4-

パナソニック ホールディングス株式会社



※パナソニック ホールディングス株式会社（PHD）は、パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社（PAS）の事業において、アポロ・グループと戦略的な共同パートナーとなりました。その結果、2024年12月よりPASは、PHDの連結子会社でなくなり、PASの親会社の持株会社であるStar Japan Holdings株式会社（その孫会社となるPASを含む）は、当社の持分法適用会社となりました。

お客様の「現場」に貢献する、BtoBソリューションを提供

01 Supply Chain

サプライチェーン 製造 / 物流 / 流通

- ・ 現場課題を可視化するセンシング、AI、ロボティクスなどのテクノロジー
- ・ 専鋭化されたハードウェアとBlue Yonderの Luminat™ ソフトウェアの融合



02 Public

公共サービス 学校 / 警察 / 自治体

- ・ 教育現場におけるハイブリッド授業実現
- ・ 警察業務（交通安全など）の精度・効率の向上に貢献
- ・ 地域の防災と地域情報に関わるソリューション



03 Infrastructure

生活インフラ 航空 / 鉄道 / エネルギー

- ・ 顔認証による新しい旅客体験
- ・ 最先端の機内エンターテインメント・コネクティビティソリューション
- ・ 駅構内・指令所での安全ソリューション
- ・ エネルギーの安定供給に向けたセキュリティ強化



04 Entertainment

エンターテインメント スタジアム/放送/イベント

- ・ 大規模な空間で非日常をクリエイト
- ・ 多彩な放送・業務用映像製品とシステム
- ・ 進化を続ける放送・CATV業界の番組制作から経営まで支援するトータルソリューション



パナソニック コネクト 事業

回路形成プロセス 事業部 (CPBD)	溶接プロセス 事業部 (WPBD)	モバイル ソリューションズ 事業部 (MSBD)	パナソニック アビオニクス (PAC)	現場ソリューション カンパニー (GSOL)	パナソニック プロジェクター& ディスプレイ(株)	Blue Yonder
						
半導体製造装置/ 実装機	溶接機/ 溶接口ボット	ノートPC/ 堅牢PC タブレット /決済システム	航空機内エンタ メシステム/ 通信システム/ 保守サービス	ソリューション ビジネス	高輝度 プロジェクター	SCMソフトウェ ア

サプライチェーンのさらなる強化のために

Blue Yonderとのこれまでの関係強化を通じ、オートノマスサプライチェーンの実現を目指す

2019.11 協業開始

2020.7 20%出資

2021.9 全株式取得完了



世界最大のサプライチェーン・ソフトウェア専門企業

81ヶ国
でビジネスを展開

グローバル顧客 3000+ 社

製造業 46 Global Top
社/100

物流業 28 Global Top
社/50

小売業 76 Global Top
社/100

パナソニック コネクトの企業改革

3階層の企業改革への取り組み

風土改革を企業改革のベースに

3階 事業立地改革

選択と集中の実践

2階 ビジネス改革

専鋭化/オペレーション改革

各職能の取り組み

1階 風土改革

カルチャー&マインド改革

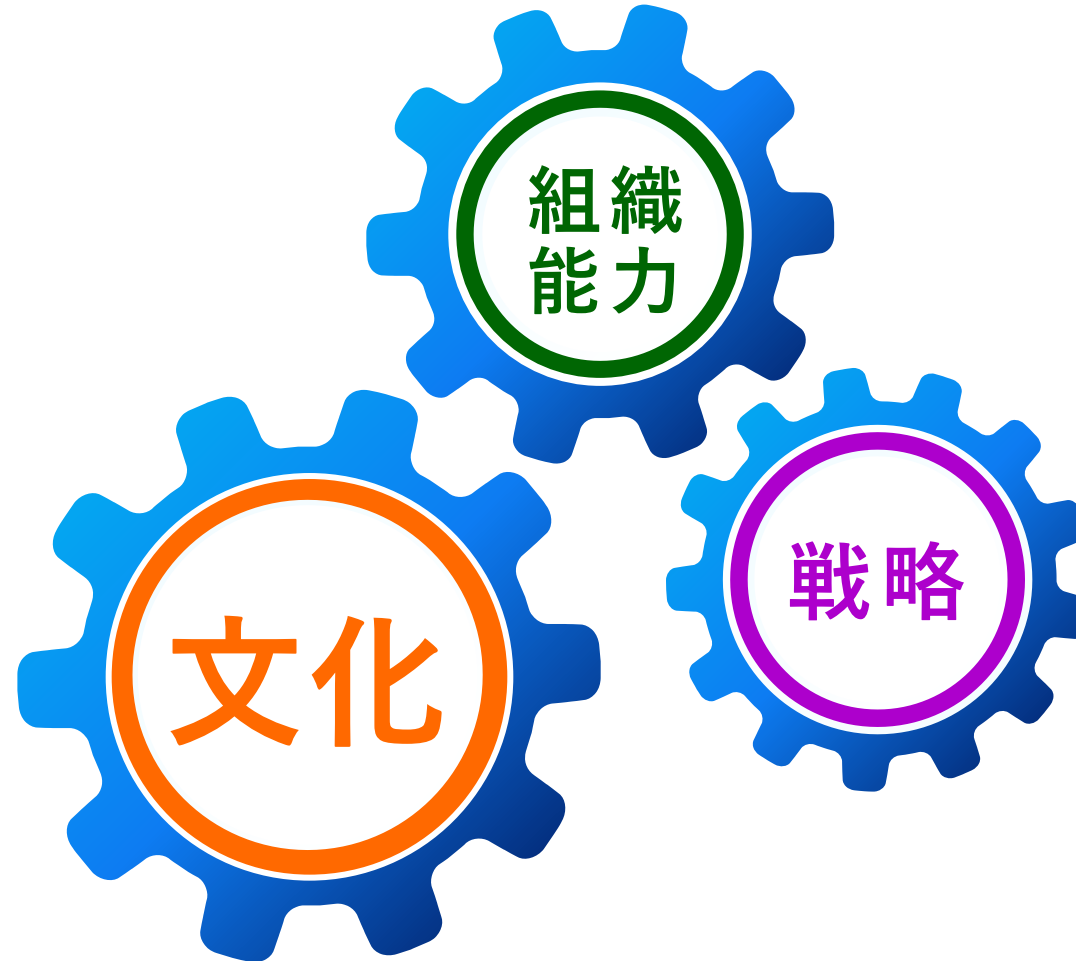
働き方改革

コンプライアンス

DEI (Diversity, Equity & Inclusion)

企業競争力の源泉： 企業文化

組織文化が変わらなければ、組織能力や戦略を活かせない



カルチャー&マインド改革

多くの施策を全社で同時並行して実践



働き方改革



東京へ本社移転



フリーアドレス



役員個室の撤廃



フォーマリティの排除



オフィスのグラフィック表示



お客様専用フロア



カスタマー
エクスペリエンスセンター



ALL HANDS MEETING



トップ発信



コミュニケーション基盤強化



1on1ミーティング



クロス1on1



サンクスカードアプリ



新入材マネジメント



CONNECTers' Academy
始動



コネクトワークスタイル



健康経営



通報廃止の徹底



ハンコ削減



社内申請・承認フロー簡便化



ConnectAI



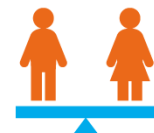
DEI



DEIフォーラム



DEI研修



ジェンダーギャップ解消



男性育休推進



LGBTQ+



障がいある方への配慮



介護



健康課題リテラシー向上



全職場にDEIリーダー設置



DEIキャラバン



DEI month



卵子凍結



コンプライアンス



コンプライアンスから
インテグリティへ



ハラスメント撲滅

※主な取り組み事例

社内での生成AI活用

2023年2月17日からConnectAIを国内全社員に展開

ConnectAI

o3-mini(思考モデル)

サンプル

Prompt: 厳秘・秘情報、個人情報を入力禁止

SUBMIT

プロンプトAI添削

Google検索: OFF


連携しない

パナソニック用語データ連携

ITサポート・データ連携

PCO人事研修データ連携

PCO品質データ連携



OpenAIの最新モデルo3-miniが利用可能になりました

2025年1月31日にリリースされたばかりの最新モデルOpenAI o3-miniが利用可能になりました。プログラムと数学に強いモデルとされています。ぜひお試しください

思考モデルとは考えてから回答するモデルです

思考モデルは以下のステップで考えて回答してくれます。

1. ユーザーのリクエストを分析
2. 検討ステップを計画
3. 1次回答を作成
4. ユーザーの要求を満たしているかを確認
5. 確認して修正した上で回答を返信

Gemini 2.0 Flash Thinkingが最新バージョン（2025年1月21日）に更新されました

Gemini 2.0 Flash Thinkingは回答速度、精度ともにバランスの良いモデルとなっていますので、一度お試しください。
*Gemini 2.0 Flash ThinkingはExperimentalモデルのため、正しく動作しないケースがあります

GPT-4oなどの方が早くて同じレベルの回答を返すケースが多いです

思考モデルは回答に時間がかかるため、通常はGPT-4oなどのモデルを利用してください。

Panasonic CONNECT

© Panasonic Connect Co., Ltd. 2025

13

生成AI導入目標と2年の成果

01

業務
生産性向上



業務削減時間

448,000h

02

社員の
AI活用スキル
向上



戦略策定や
商品企画に活用

03

シャドー
AI利用リスク
軽減



AI関連の事故

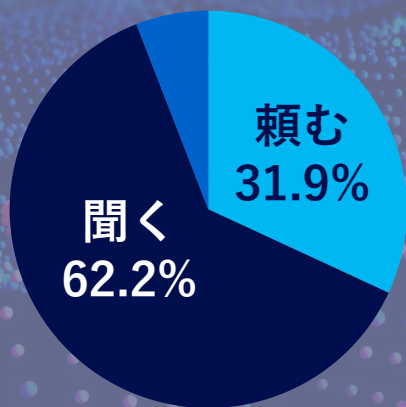
0回

Connect AIの進化

「聞く」から「頼む」へのシフトで削減時間の増加

<2024年の利用実績> 削減時間：44.8万時間（昨年比2.4倍）

「聞く」が半分以上

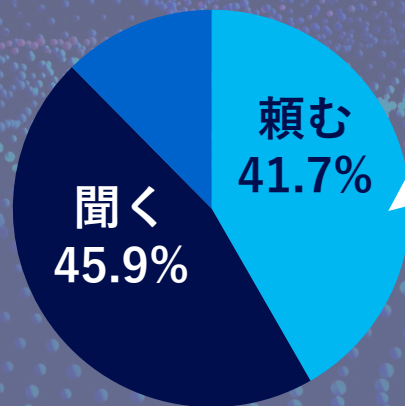


2023年5月

社員スキル向上

AI技術の進化

「頼む」へのシフト

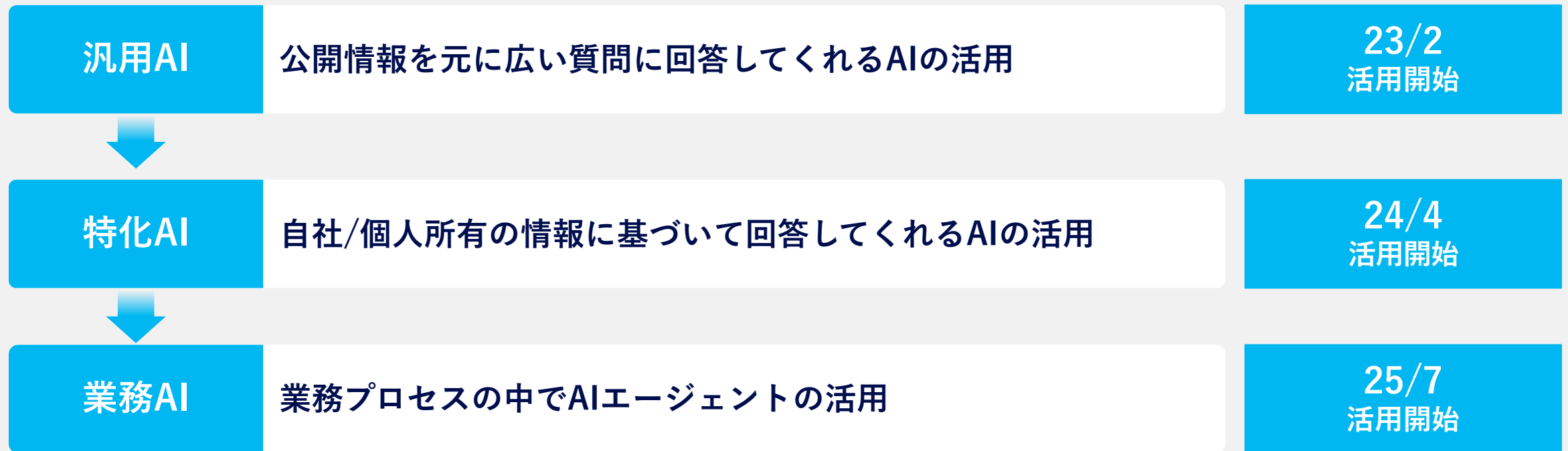


10%増

2025年5月

今後の戦略: AIエージェント活用を加速

- 25年度は業務AI(エージェント)の活用に注力
- 従来は3ステップ目は個人特化AIだったが、より効果が高い業務AIに変更
- 個人特化AIは特化AIに包括し自社に加え、個人に特化した情報も利用可能に



現場での活用事例とチャレンジ

実例 1 外資系ITベンダー時代

米国本社発信の資料・記事翻訳が大きな負担

プレスリリース、レポート、ホワイトペーパー、ブログ、ケーススタディ

1社の機械翻訳だけでは修正が多く実用レベルではない…

DeepL登場後：自然な日本語に近づき常用化

翻訳の質・量ともに大幅に効率化、修正の際に比較・併用が可能に

翻訳精度の比較・使い分け：Google／DeepL／生成AI

ローカライズ業務の運用実態

急ぎ案件：自身で
機械翻訳＋AI翻訳
＋最終調整

大量案件／正確性重視：
翻訳会社へ委託



翻訳会社の役割変化
翻訳＋PowerPoint成形・動画字幕など後工程支援へ

実例 2 日本企業でのグローバル対応

グローバル子会社の資料翻訳、日本からの共有時の英文化対応

プレスリリース、レポート、ホワイトペーパー、ブログ、ケーススタディ

量・頻度多くはないが当日対応等急ぎなものが多い

英語→日本語、日本語→英語 双方向で機械翻訳を活用

米ネイティブも機械翻訳で一次翻訳 → ネイティブチェック

Quickにチェックを行う程度でスピードがさらにアップ

会議中のリアルタイム翻訳

生成AIが変えた現場のローカライズ

- 初稿作成のスピードが劇的に向上
翻訳＋要約＋構成案まで出力。人の作業は“レビューと調整”にシフト
- “対話で仕上げる”スタイルへ
トーン・難易度・対象者などを後から調整可能、“伝わる文章”に近づけやすく
- 途中で方向転換してもすぐ別案を生成
何度でもやり直しが可能。“手戻りコスト”がほぼゼロに

生成AIが変えたのは、翻訳の“作業”ではなく、翻訳を中心とした“仕事の進め方”

現場におけるチャレンジ

- 01 機密度高案件は**社内向けの生成AIでもNG**
- 02 セキュリティ観点での生成AIの**活用制限**
- 03 英語の意訳／日本語表現の柔らかさ **トーン調整**
- 04 “正確性”では伝わらない**ニュアンス調整、文化の違い**
- 05 **対象**による表現の**違い**（経営層・一般社員・社外）

これからの翻訳・ローカライズの可能性

これからの翻訳・ローカライズの可能性



翻訳は「作業」から「コミュニケーション設計」へ

翻訳・ローカライズの進化ー具体的な変化ポイント



リアルタイム化

会議字幕・同時通訳
の自動化が進み
“言語で会議が止まら
ない”世界へ



情報 デザイン化

翻訳は文章変換から
“誰にどう伝えるか”
の設計作業に進化



多言語/マルチ モーダル化

1つの原文から
複数言語/音声/図解
が同時生成される
未来へ



人・プロの 高度化

AI活用で生産性が向
上。人の価値は「判
断・共感・倫理・品
質保証」にシフト



誰でも 翻訳者に

社内メール、議事
録、SNS、資料作成
…翻訳は“誰もが日常
的に行う作業”に

翻訳業務は「情報を最適な形で届ける技術」へと拡大・進化

まとめ

- MT + 生成AIを使い、人が“伝わる形”に最終化
- 人間の役割はさらに重要で高度に
- 必要なのは、AIを“使いこなす力”と“人にしかできない判断”
- AIと人が補い合い、協働していく時代へ



Panasonic CONNECT

※本資料中の当社以外の企業名、製品名やブランドは、該当各社の商標又は登録商標です。